事例No.	1342
公表年度	H30
団体の属性	複数団体
団体名	徳島県美馬市・佐那河内村・美波町

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・少子化・人口減少 ・観光

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

「全国阿波おどり『連』関係人口化」事業　（「TOKUSHIMA-REN 」プロジェクト）

出典

平成30年度「「関係人口」創出事業」モデル事業調査報告書

29. 徳島県（美馬市・佐那河内村・美波町） 「全国阿波おどり『連』関係人口化」事業（「TOKUSHIMA-REN」プロジェクト）（事業パターン（２））

29.1 地域の特徴と事業のねらい

(1) **地域の特徴**

豊かな自然環境を活かした農林水産業が盛んであり、本県の基幹産業である。特に、京阪神に近いという地理的強みから、「関西の台所」として、古くから関西市場への出荷卸売を中心に発展してきた。

近年では、白色 LED の世界トップシェアを誇る企業をはじめ、LED 関連企業が 130 社以上集積すると共に、CATV 世帯普及率全国 1 位を誇る「全国屈指の光ブロードバンド環境」を活用したクリエイティブ関連企業の進出が盛んであり、サテライトオフィスの誘致も平成 24 年度から本格的に展開している。

また、120 万人の観光客が訪れる「阿波おどり」をはじめとした「あわ文化」や、「うだつの町並み」「祖谷のかずら橋」などの歴史的・文化的遺産など、魅力ある観光資源を有している。

全域で県外への人口流出が拡大し、15～24 歳の若者が大学進学や就職等を機に関西や東京圏に転出する傾向が続いている。高齢化率も全国水準を上回り、地域の担い手不足が深刻化している。

(2) **事業のねらい**

1）解決したい地域課題

人口減少・少子高齢化に伴い、地域活動の担い手や協力者が不足しており、組織の運営、世代交代が困難になりつつある。地域の担い手の育成・確保による持続可能な地域づくりの実現を課題とした。

また、本県内で実施する事業において、その取組の趣旨・内容等が広く周知できておらず、事業が機能的に展開されないケースも多いことから、本県の弱みである「情報発信」を強化するため、インフルエンサーの確保も課題とした。

2）地域課題を将来どのようにしたいか（アウトカム）

3～5 年後のビジョンとしては、地域の有する資源の価値が広く認知され、それを活用した事業が自発的に生まれていること。また、地域住民と「地域ファン」との交流が継続的に生まれ、緩やかに転入が発生していること。中長期的なビジョンとしては、関係人口を生み出す基盤が構築され、県内全域で継続的・体系的に関係人口創出のための取組が実施されていること。

3）前述の地域課題を今年どのようにしたいか（アウトプット）

連携 3 市町村において、以下の項目が達成されていることを今年度の目標とした。

・地域の課題や活動が広く認知され、その活動を行う人材が確保されていること。

・地域の歴史や文化を理解し応援する「地域ファン」が創出されていること。

・今後、県内各市町村が実施する関係人口創出（アプローチ手法）の雛形が作成されていること。

29.2 事業内容

(1) **関係人口を募る仕組み**

1）広報・募集事業

（「関係人口」創出セミナー「交流会」（佐那河内村①））

7 月 28 日～29 日にかけて、小金井市のアンテナショップ「otete」を拠点に、「東京・小金井すだち連」の連員を中心とした小金井市民に対して募集を行った。11 名が参加し、「関係案内人」や「ふるさと住民票」の PR 等を行い、8 月に実施する佐那河内ツアーに参加する意欲のある者を募った。

（総務省「関係人口」セミナー（佐那河内村②））

8 月に総務省セミナー（東京）にて、長い将来にわたり世代を超えて継続性ある関係構築を目指すため、今回は小学生以下の子供がいる家族を対象に募集した。セミナーには 20 名以上が参加した。

2）ポータルサイト機能拡充

平成 30 年度に本格稼働を見据え整備する若者定着・還流促進サイト「AWAIRO（アワイロ）」に「マッチング支援」機能を追加し、本年度は県内外への情報発信と関係人口としての登録を広く呼び掛けた。本事業コンセプトをはじめ、連携 3 市町村でのプロジェクト内容や参加者インタビュー記事などを掲載するとともに、簡易な「関係人口」登録フォーム（エクセルデータで抽出可）を構築した。

3）地域内外ネットワーク連携強化

（振り返りイベントの開催）

事業実施当初に対応できなかった県外「阿波おどり連」との関係性を構築するため、次年度以降の継続した関係性構築に向け、「東京高円寺阿波おどり振興協会」「南越谷阿波踊り振興会」にも参加いただき、今年度事業の反省や、今後の展開に向けた意見交換等を行うための「振り返りイベント」を 12 月に実施した。また、試験的に動画配信サイトでイベント・ライブ配信も行った。

（市町村向けセミナーの開催）

2 月に徳島県内のホテルにて本年度事業で培ったノウハウを、次年度以降、県下全域へ横展開するため、全 24 市町村職員や地域活動団体を対象とした「市町村向けセミナー」を実施した。

4）「関係人口」の可視化に向けたモデル検証

美波町では、「サテライトオフィス誘致」や「地域課題テーマ型インターンシップ」など、先進的な関係人口創出に向けた取組を行ってきた地域であり、その実績を活かし、「関係人口」創出構造を調査分析して、持続可能な地域の創造に繋がる「新たな指標の可視化」に取り組んだ。

美波町で暮らす「I ターン移住者」と、美波町へ第二の生活拠点を持つ「2 拠点居住者」の 2 タイプに該当する方へヒアリングを行い、現在に至る経緯をマップ化した。

3 つのモデルとして、以下があげられる。

【長期成長型】　：趣味趣向に伴う地域住民との交流を機に、自己実現と地域づくりをパラレルで実行するパターン

【多人数受入型】：仕事や事業を通じて地域との関わりを持ち、その後、地域住民との交流を経て定着するパターン

【仕事依存型】　：仕事や事業を通じ移住するが、地域住民との接点がなく、仕事の状況で別の地域へ移動するパターン

それぞれ「動機」→「交流人口」→「関係人口」→「定住」・「2 拠点居住」に至るステップで「地域住民の協力」「受入れ拠点の整備」「雇用先の確保」が必要であり、地域特性に応じてモデルを選ぶ必要があると考えられる。各モデルに共通する課題として、「どのようにして人を呼び込むか？」「どのようにして地域

住民の協力を得るか？」「どのようにしてステップの成長度合いを測るか？」という３つのポイントを押さえることで、関係人口創出のみならず、様々な地域貢献人材を獲得することができると考えられる。

(2) **地域課題に関する講座の実施内容**

1）協働実践活動説明会（美馬市・美波町）

徳島市阿波おどり開催時に来県する県外連への参加者募集が困難となったため、地方に興味・関心を持つ者のコミュニティサイト「ニッポン応援女子部」をはじめ、県東京本部が首都圏で実施している「徳島阿波おどり講座」やメルマガ「東京徳島通信」、佐那河内村と繋がりのできた「東京・小金井すだち連」のネットワーク等を活用した幅広い広報活動を行った。9 月に東京の飲食店にて説明会を開催し、当日は 9 名参加したものの、より多くの参加希望等の問い合わせもあり、「阿波おどりファン」のみならず、様々な分野での徳島ファンが存在することが確認できた。

2）各協働実践活動の初日における理解促進活動

後述する４件の協働実践活動のそれぞれ初日に、事業参加者と地元関係者を交え、改めて、関係人口の概念や地域課題への更なる理解促進や今後の関係性構築を図るとともに、地元関係者と事業参加者の相互理解を深めるための講座を実施した。講座により募集セミナーでは十分に伝えられなかった地域課題の詳細部分や地域特性、地域の魅力等について、参加者の理解を深めることができた。

(3) **協働実践活動の実施内容**

1）佐那河内村「すだち連プロジェクト」

8 月に佐那河内村にて、「東京・小金井すだち連」の方々に、都市部における「関係案内人」としての機能を発揮してもらうため、地元の夏祭りや本場「徳島市阿波おどり」で「佐那河内すだち連」との協働演舞をはじめ、地域住民との交流を実施して、地域の魅力体感と愛着の形成を図った。結果、関係案内人として「ふるさと住民票」に 10 名が登録した。

2）「大阪ミリカヒルズ」関係人口創出・佐那河内ツアー

「食業工房さなごうち」で地元食材である「こんにゃく造り体験」や「すだちの収穫体験」をはじめ、地元直売所において、生産・流通・販売等の現状を聞き取っていただくなど、地域課題に向けた理解促進を図るとともに、地元住民との意見交換等を実施した。

3）美波町「九州出漁団 150 年の絆プロジェクト」応援イベント

地域課題の解決に向け、「絆プロジェクト」関係者らへのインタビューや地域の歴史・文化（漁業体験・23 番札所の観光ボランティア体験等）を通じ、プロジェクトへの理解を深めていただいた上で、さらなる取組展開に向け、SNS 等による情報発信やプロモーションのための企画提案など、プロジェクトを後押しする活動を行っていただいた。10 月に美波町で開催し、３名が参加した。

4）美馬市「うだつの町並み再生プロジェクト」応援イベント

「うだつの町並み再生プロジェクト」への理解を深めていただいた上で、情報発信や企画提案などを実施していただくため、起業・新規事業立上げ等で地域活性化に取り組む事業者へのインタビュー等を通じた交流を図るとともに、美馬市の歴史・伝統文化（藍染・和傘）の魅力体験、地元関係者との交流会を実施した。11 月に美馬市にて開催し、３名が参加した。

29.3 成果分析

(1) 地域課題の設定と課題解決に向けた関係人口の関与

現在、３市町村で実施されている各プロジェクトにおいて、その取組の趣旨・内容、現場の実態等が広く周知できておらず、事業が機能的に展開されないケースも多いことから、本県の弱みである「情報発信」を強化するため、インフルエンサーの確保を主とした課題設定を行った。基本的に、参加者全員が「徳島ファン」になっていただき、事業参加後の情報発信にも協力いただいた。また、各プロジェクトへの客観的な意見や企画をいただくとともに、地域住民の人間性や、地域特性も含め、「地域の魅力」を認めていただいたことで、地域住民の自信と誇りを回復させ、取り組み意欲の向上に繋がったと考えられる。

(2) 事業参加者に対するアンケート等の結果及び分析

地域との継続的な関わりの意向については、参加者全員に、今後も徳島県と関わっていきたいとの声をいただいたので、取りかかりとしては、まずは成功と感じている。今後も継続的な繋がりを構築していく。

受入体制については、課題解決に繋げることが目的であり、地域で活躍する事業者・移住者等中心の受入体制としたが、今後はもっと一般住民も巻き込み、地域全体で受入れる体制に取り組みたい。

また、事業参加者の皆さんが、より具体的な活動へ発展していくためには、地域とのコミュニケーション機会を複数回重ねていく必要があるため、次年度以降の展開として、本県に訪れない期間中にどのようなコミュニケーションを図るかが課題である。

(3) 事業成果に対するふりかえり

セミナー募集から協働実践活動に至るまで、佐那河内村のケースでは、徳島と都市部を繋いでくれる人材がいたため、かなりスムースに参加者を募ることができたが、美馬市、美波町においては、そのような人材がいなかったため、参加者募集には大変苦慮した。

また、事業参加者への地域理解に対する時間が十分に取れない状況の中、また、地域住民と事業参加者との人間関係が構築されていない中で、課題解決に向けた直接的な取組に結びつかなかった。

役割分担に関しては、再委託先である株式会社あわえが 3 市町村すべての企画・運営に携わったが、一民間企業が広範囲に渡る市町村すべての中間支援組織を担うことは業務遂行上負荷が非常に大きかった。このことを踏まえ、県全体として、もしくは県内の３圏域程度の広さごとに、中間支援組織を設けることが望まれる。（DMO 等）

事業への参加者募集については、SNS 等による発信も効果的ではあるが、やはり「実際に地域を体験した方」「実際に地域と関係性を構築した方」からの口コミ発信は効果絶大であり、「関係人口」の創出・拡大においては、「関係性を構築した人」を介して、その繋がりを広げていくことが最も効果的かつ実効性が高いアプローチであると認識した。

都市部で開催した募集セミナーにおいては、地域で課題解決に取り組むキーパーソンをゲストとして同行いただかなかったことが反省点である。セミナーでキーパーソンの話に関心を持っていただき、そして地域に来てもらってから一緒に実践活動に参画する流れを作れたら、人間関係の構築も地域との関係性においても、一気に距離が縮まると思われる。

３市町村の実践活動を通じた参加者の共通事項として、皆さんが「食」には大変興味を持っていること。やはり都市部の方が地域との関係性を構築するには、地域の方々との共通の趣味、話題を持つこと

が必要不可欠であり、今後の事業展開においては、都市部でのセミナーやイベント開催時には、「食」をテーマにし、料理を作りながら、料理を食しながら地域課題を考えるアイデアソンやマーケティングキッチンを開催できれば効果的であると考える。

人間関係の構築（友達づくり）に当たっては、共通の趣味、共通の話題、共通の課題など、双方の共通事項を見つけることが近道であると考えられる。今回の事業参加者全員に共通することは、徳島県の「食」に対する関心の高さであったことから、今後の継続した関わりを構築していく事業展開においては、地元の特産品を食するのみだけではなく、生産、加工、料理体験など、「食」に関する企画も盛り込んでいきたい。

一方、佐那河内村の事業パターンのように、都市部での支援者を介し、一定地域の人々を対象とした地域と地域との関係性を構築する場合、支援者からの十分な情報提供、実体験を基にした具体的な事前説明等が可能であるとともに、その後の継続性、関係人口の拡大においても、効果的かつ効率的な展開が期待できる。

(4) **今後の取組に向けた課題**

次年度以降、県下全域へ「関係人口」の取組を横展開するため、まずは、県の役割として、都市部人材の集客と情報発信の強化、各市町村の役割としては、「関係人口」の受入体制（地域活動団体等との連携）の強化と魅力ある体験フィールドの提供であると考えている。そのためには、以下の対応が求められる。

1）中間支援機能の形成

まず、都市部における「中間支援機能」の構築が最優先課題であると認識している。今後は「高円寺阿波おどり」「南越谷阿波踊り」や「小金井阿波おどり」の連を中心に、「徳島県人会」や今年度事業の参加者ネットワークを活用した「関係案内所（人）」の確立、拡大を目指していく。

さらに、各市町村単独で「関係人口」の受入体制を構築するよりは、ある程度の圏域単位での受入体制を構築する方が地域・都市部人材の双方にとって有益であることから、本県の東部、南部、西部それぞれの圏域ごとに設立されているDMOに受入母体となっていただけるようアプローチを図っていき、今年度の連携市町村の継続的な取組支援はもとより、その他市町村の取組拡大についても、積極的な支援を展開していく。

2）情報発信

AWAIROサイトを関係人口プラットフォームとして、全24市町村が活用できるように、管理者権限を全市町村に与え、新着情報・お知らせ情報等を各市町村からも発信できる機能を追加するとともに、メルマガ配信機能等も追加する予定である。

3）ポータルサイトの機能拡充

都市部人材とのマッチングが直接的かつ効果的に実施できるよう、各市町村が実施するイベント等の参加者募集掲示板機能の追加と、現在の登録フォームの登録項目（個人属性項目や関心事項目、スキル情報項目）の充実を図り、各市町村、関係人口登録者の双方向からのアプローチが可能となる「関係人口」人材バンクのデータベース化に取り組む。